

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

| 保険者名 | 第8期介護保険事業計画に記載の内容 | | | | R5年度(年度末実績) | | |
|------|-------------------|---|---|--|--|------|--|
| | 区分 | 現状と課題 | 第8期における具体的な取組 | 目標 (事業内容、指標等) | 実施内容 | 自己評価 | 課題と対応策 |
| 有田市 | ②給付適正化 | <ul style="list-style-type: none"> 介護事業所の利用者や職員の新型コロナウイルス感染症の適切な予防対策を推進する必要がある。 利用者の自立支援、介護予防・重度化防止に資するよう、ケアマネジメントの質の一層の向上を図る必要がある。 介護給付適正化事業を通じて、介護サービスを必要とする利用者を適切に設定し、利用者が真に必要なとするサービスを介護サービス事業者が過不足なく提供する必要があります。 | <ul style="list-style-type: none"> 介護サービス事業者への指導・助言の推進 介護事業所における感染症拡大防止の推進 介護人材の確保・定着推進 効率的な事業所運営の促進 ケアマネジメントの質の向上 介護給付適正化事業の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 要介護認定の訪問調査に関する確認件数 (R3)1,760件、(R4)1,790件、(R5)1,800件 ケアプラン点検の実施件数 (R3)15件、(R4)15件、(R5)15件 住宅改修等の点検件数 (R3)5件、(R4)5件、(R5)5件 医療情報突合・縦覧点検での事業所への内容確認件数 (R3)136件、(R4)138件、(R5)139件 介護給付費通知数(2回/年) (R3)3,300通、(R4)3,400通、(R5)3,400通 | <ul style="list-style-type: none"> 要介護認定の訪問調査に関する確認件数 (R3)1,280件、(R4)1,387件、(R5)1,375件 ケアプラン点検の実施件数 (R3)15件、(R4)9件、(R5)25件 住宅改修等の点検件数 (R3)1件、(R4)1件、(R5)3件 医療情報突合・縦覧点検での事業所への内容確認件数 (R3)166件、(R4)132件、(R5)124件 介護給付費通知数(2回/年) (R3)3,155通、(R4)3,147通、(R5)3,190通 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 介護サービス事業者に対しては、適正適法かつ利用者本位のサービスができるよう、法令の周知や実地指導、助言を行った。また、地域密着型サービス事業所の運営推進会議に出席し、的確な助言に努めた。 要介護認定の訪問調査に関する確認、ケアプラン点検、住宅改修・福祉用具の点検、医療情報突合・縦覧点検、介護給付費通知を定期的に実施し、介護給付適正化を推進した。 |
| 有田市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターの運営にあたっては、複雑多岐にわたる困難事例に対応できるよう、人員確保と資質向上を図るとともに、医療・介護・福祉の各関係機関との連携・協力体制を強化する必要がある。 高齢者本人だけでなく、家族等も含め、生活課題を重層的に抱える世帯が増加していることから、分野横断的な相談支援を強化する必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターの機能強化 地域ケア会議の充実 総合相談体制の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員研修会の開催回数 (R3)1回、(R4)1回、(R5)1回 介護支援専門員研修会の参加人数 (R3)50人、(R4)50人、(R5)50人 個別事例を検討する地域ケア会議の開催回数 (R3)11回、(R4)11回、(R5)11回 地域ケア推進委員会の開催回数 (R3)1回、(R4)1回、(R5)1回 | <ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員研修会の開催回数 (R3)1回、(R4)1回、(R5)3回 介護支援専門員研修会の参加人数 (R3)46人、(R4)56人、(R5)68人 個別事例を検討する地域ケア会議の開催回数 (R3)0回、(R4)5回、(R5)6回 地域ケア推進委員会の開催回数 (R3)0回、(R4)0回、(R5)0回 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 重層的な課題を的確にアセスメントし、包括的な相談支援を提供できるよう、専門職が研修等を通して研鑽を重ねた。 地域ケア個別会議を通して、高齢者の課題や自立支援の事例を協働により検討することで、ネットワークを強化し、地域課題やニーズの把握に努めた。 地域包括支援センター等、障害や困窮等の相談支援に関わる部門・機関で情報を共有し、総合相談の充実に努めた。 |
| 有田市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | <ul style="list-style-type: none"> 慢性的な疾患を持つ高齢者や、医療ニーズと介護ニーズを併せ持つ高齢者などへの支援は、医療と介護の連携が不可欠なことから、在宅医療・介護連携を推進して、地域の医療・介護の専門職が現状や課題の共有に努め、切れ目のない支援を推進する必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 在宅医療・介護連携の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 在宅医療・介護連携推進協議会等の開催回数 (R3)2回、(R4)2回、(R5)2回 専門職を対象とした在宅医療・介護連携の研修の実施回数 (R3)8回、(R4)8回、(R5)8回 医療・介護関係の多職種が参加する研修会の実施回数 (R3)1回、(R4)1回、(R5)2回 | <ul style="list-style-type: none"> 在宅医療・介護連携推進協議会等の開催回数 (R3)1回、(R4)0回、(R5)1回 介護支援専門員研修会の参加人数 (R3)1回、(R4)1回、(R5)4回 医療・介護関係の多職種が参加する研修会の実施回数 (R3)1回、(R4)1回、(R5)2回 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 医療機関と介護事業所等の協働・連携により、切れ目なくサービス等を提供できる体制づくりを推進した。「有田市医師会在宅医療サポートセンター」の認知度を高めるため、引き続き周知・啓発を行っていく。 |
| 有田市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症は、早期に対応・治療すれば進行を遅らせる可能性を高めることができるが、認知症による受診や介護サービスの利用については、本人が拒否するケースも多く、早期に適切な医療や介護につながるよう働きかける必要がある。 若年性認知症は、働き盛りの世代での発症もみられ、仕事や日常生活などに支障をきたす恐れがあるが、年齢が若いため症状と認知症が自分自身では結びつかないこともあり、正しい知識の普及を図り、早期発見・早期受診につなげる必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症の早期発見・早期支援 認知症の人への適切な医療・介護サービスの提供 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症初期集中支援チーム会議数の開催回数 (R3)12回、(R4)12回、(R5)12回 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症初期集中支援チーム会議数の開催回数 (R3)4回、(R4)3回、(R5)1回 | △ | <ul style="list-style-type: none"> 認知症の早期発見・早期支援ができるよう、認知症初期集中支援チーム会議で支援方法の検討を行った。 認知症と診断された後に、適切な医療・介護サービスが提供できるよう、かかりつけ医や各事業所との連携を強化し、「認知症ケアパス」の普及と活用を図った。 相談機関や会議の開催周知が不十分であった。窓口だけでなく、ホームページやSNSの活用をする。 |
| 有田市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | <ul style="list-style-type: none"> フレイルの進行予防に着手しながら既存の取り組みを一層発展させ、要介護への移行、重度化を抑制する必要がある。 「介護予防・生活支援サービス事業」は、本市では、介護予防訪問介護相当サービス、訪問型サービスA、介護予防通所介護相当サービス、通所型サービスAを実施している。利用者が自立を目指す主体的に介護予防に取り組めるよう支援する必要がある。 元気な高齢者が介護予防や生活支援の担い手になることで、社会的な役割を実感できるよう働きかける必要がある。 本市の健診データの10年間の経年分析では、高血圧・脂質異常が重度化しないようコントロールできた層は、要介護への移行が緩やかであることが明らかとなっている。また、要介護状態になった要因を分析すると、「骨折・筋力低下」の割合が高くなっている。こうした本市の特徴に沿った分野横断的な介護予防・健康づくりに取り組む必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 「介護予防・生活支援サービス事業」の充実 一般介護予防事業の推進 健康寿命延伸に向けた取り組みの推進 | <ul style="list-style-type: none"> いきいき体操の会場数 (R3)13か所、(R4)13か所、(R5)13か所 いきいき体操の参加延人数 (R3)5,500人、(R4)6,000人、(R5)6,500人 やわら元気体操の会場数 (R3)12か所、(R4)12か所、(R5)12か所 やわら元気体操の参加延人数 (R3)5,000人、(R4)5,500人、(R5)6,000人 みんなのサロンの会場数 (R3)7か所、(R4)7か所、(R5)7か所 みんなのサロンの参加延人数 (R3)600人、(R4)700人、(R5)800人 いきいき百歳体操の団体数 (R3)19団体、(R4)23団体、(R5)27団体 | <ul style="list-style-type: none"> いきいき体操の会場数 (R3)13か所、(R4)13か所、(R5)13か所 いきいき体操の参加延人数 (R3)3,597人、(R4)3,946人、(R5)4,683人 やわら元気体操の会場数 (R3)12か所、(R4)12か所、(R5)12か所 やわら元気体操の参加延人数 (R3)4,476人、(R4)4,602人、(R5)4,604人 みんなのサロンの会場数 (R3)7か所、(R4)6か所、(R5)6か所 みんなのサロンの参加延人数 (R3)456人、(R4)625人、(R5)646人 いきいき百歳体操の団体数 (R3)20団体、(R4)28団体、(R5)32団体 | △ | <ul style="list-style-type: none"> 各教室や通いの場など、住民主体の介護予防・認知症予防活動の普及拡大に取り組んだ。活動のマンネリ化が生じないように、毎月の講座内容を変更するなどの工夫を図った。会場数は確保されているが、教室の参加者を増加させる必要がある。近場の教室に参加できるよう、周知が必要。 健康アプリを導入し、日々の健康管理やウォークラリーの開催等、自発的な健康づくりを促す取り組みや、健康寿命延伸に向けた住民参加型の取り組みを推進した。 |
| 有田市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | <ul style="list-style-type: none"> 意欲のある高齢者が長年培った知識や技術を生かし、地域で活躍できる環境づくりを進めることが必要である。 元気な高齢者が支援を必要とする高齢者を支える担い手となるような仕組みづくりを含め、取り組みを進める必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 老人クラブ活動の活性化 シルバー人材センターの活性化 ボランティア活動への支援 | <ul style="list-style-type: none"> 老人クラブの会員数 (R3)2,200人、(R4)2,220人、(R5)2,240人 シルバー人材センターの会員数 (R3)115人、(R4)122人、(R5)129人 | <ul style="list-style-type: none"> 老人クラブの会員数 (R3)2,061人、(R4)2,026人、(R5)1,983人 シルバー人材センターの会員数 (R3)85人、(R4)80人、(R5)84人 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、長寿祭やスポーツ大会などの各種イベントを中止していたが、老人クラブの活動を通して健康寿命の延伸につながることを期待されるため、徐々に再開した。 社会福祉協議会と連携しながら、高齢者のボランティア活動の参加意識の醸成、活動支援を行った。 |
| 有田市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症の人の介護者は、認知症特有の症状や行動への適切な関わり方や介護方法について日常から悩みや負担感を感じており、そうした悩みや負担感の軽減を図る必要がある。 地域には認知症に対する偏見がまだ残っているため、多世代に繰り返し啓発し、認知症の人や家族が住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくりを進める必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーターの養成 認知症の人とその家族への支援 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座の開催回数 (R3)18回、(R4)18回、(R5)18回 認知症サポーターの養成人数 (R3)350人、(R4)350人、(R5)350人 認知症カフェの会場数 (R3)4か所、(R4)5か所、(R5)6か所 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座の開催回数 (R3)8回、(R4)5回、(R5)9回 認知症サポーターの養成人数 (R3)170人、(R4)86人、(R5)148人 認知症カフェの会場数 (R3)0か所、(R4)0か所、(R5)2か所 | △ | <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会に委託し、地域住民を対象とした認知症サポーター養成講座を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響で、学校など集団での養成講座の開催が難しく、サポーターを養成する機会の確保が難しい状況であった。 新型コロナウイルス感染症の影響で、認知症カフェや家族の集いの開催が難しい状況であった。徐々に再開を促す。 教室等の団体に働きかけ、受講者が増やせるよう周知方法を検討する。 |